

7

PBP2'検出イムノクロマトキットの有用性の検討

◎西岡 聖美¹⁾、平田 舞花¹⁾、全 満喜¹⁾、田邊 悠香¹⁾、藤川 康則¹⁾
地方独立行政法人 大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター¹⁾

【目的】methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* (MRSA)の検出法には、oxacillinなどの薬剤感受性試験から判定、ペニシリン結合蛋白2'(PBP2')を検出、*mecA* 遺伝子を検出する方法がある。今回、PBP2'を菌体からではなく、血液培養液から直接検出することができるPBP2'検出イムノクロマトキット(極東製薬)の有用性を検討する機会を得たので報告する。

【対象】2017年9月から2018年7月の期間で陽性となった血液培養ボトルで、グラム染色においてブドウ球菌と判断した35症例48本(好気26本、嫌気17本、小児5本)を対象とした。

【方法】イムノクロマト(IM)法は血液培養液を専用の前処理試薬により処理した後に、抗原抽出液と中和液を加えデバイスに滴下し判定した。ラテックス凝集反応(LA)法(MRSA-LA「生研」)は、一昼夜培養後のコロニーを用いて添付文書に従い実施した。同定及び薬剤感受性試験についてはWalkAway 96Plus PC3.1Jパネル(BECKMAN COULTER)を用いて実施した。さらにIM法については、

前処理試薬を用いずに血液培養液を遠心し、そのバッフィーコートを用いる方法についても実施した。

【結果】薬剤感受性試験におけるoxacillinを基準とした場合のIM法とLA法の感度・特異度はそれぞれ93.8%(30/32)・100%(16/16)、100%(32/32)・100%(16/16)となった。IM法とLA法の陽性一致率は93.8%、陰性一致率は100%であった。*S. aureus*(32件)に限ると陽性一致率・陰性一致率ともに100%であった。複数の菌種が混在していた培養ボトルが3件あり、そのうち1件で結果の不一致が見られた。IM法における前処理二法の結果の違いは認められなかった。

【考察】IM法はLA法と比較してほぼ同等の結果が得られた。本キットは血液培養陽性ボトルより直接PBP2'の検出が可能なることから、培養後に菌体から検出するLA法や薬剤感受性試験よりも迅速に臨床へ報告することができる。また、遺伝子検査のように特別な装置を必要とせず容易にPBP2'を検出できることより、有用な試薬であると考えられる。 連絡先-06-6929-1221